

学習指導要領

多様な人々と協働して
持続可能な社会を創る

学校経営全体構想

岩国市教育指針

志高く豊かな心と
生き抜く力を育む

学校教育目標

ふるさとに誇りをもち 夢に向かって心豊かに生きる『美川っ子』の育成

未来を拓く「たくましいやまぐちっ子」の育成（県目標）

めざす学校像
「わかる・楽しい・のびる」
活気のある学校

めざす教師像
豊かな人間性と識見を持ち
チャレンジする教師

児童の実態
保護者地域の願い
教師の願い

めざす児童像

み ずから学ぶ かしこい子
知（学ぶ力・創る力）

か らだも心も 元気な子
体（生き抜く力・燃える心）

わ を大切にす り優しい子
徳（広い心・温かい心）

学校経営方針

- 「知・徳・体」のバランスのとれた生き抜く力の育成に向けた教育活動の推進
 - ① 夢や志をもち、自己の目的に向かって主体的に学ぶ子どもの育成（知：自ら学ぶかしこい子）
 - ・地域住民の教育力をふんだんに活用した『主体的に対話のある深い学び』の実践
 - ・聞いて理解して伝える力・「思い」を分かるように伝える力としての表現力を育成する場の充実
 - ・「学び」を支えるための基礎基本の徹底指導 → 基礎基本の充実
 - ② 健康な心と体の育成（体：体も心も元気な子）
 - ・体力向上の取組の推進 → しっかり汗をかく体育科授業の実践、楽しく取り組むためのしかけ作り
 - ・基本的な生活習慣の振り返り（改善・定着）
 - ・教育相談の充実（なかよしアンケートの有効活用）
 - ③ 関わりを大切にす り豊かな心の育成（徳：和を大切にす り優しい子）
 - ・「感謝の心、自己有用感・自己肯定感、互いを認める心」を育成する場の充実
 - ・地域との交流、ボランティア活動を含む体験活動の重視（特色ある教育活動の推進）
（PTA、地域人材、地域素材（行事・自然・もの等）の活用）
 - ・体験活動、道徳教育、人権教育、図書館教育等の充実による規範意識や生命や自他を大切にす り心の育成
- 安全・安心な学校 → 危機管理能力（危険予測能力および危機対応能力）の強化
 - ・安心して学べる、安心して働くことのできる環境づくり（大人も子どもも危機対応能力の向上を図る）
 - ・学校安全・交通安全・防犯（生活安全）
 - ・いじめ対応（なかよしアンケートや情報共有会、教育支援委員会の確実な実施といじめ対策委員会やいじめ対策会議を活用した組織的な対応）
 - ・地域が経験した災害を知り、防災について学び、命を守るための経験則を学ぶことにより「自然と共生する力」を育成する防災教育の充実
 - ・綱紀保持研修の重視による教職員のコンプライアンス意識の向上
- 「社会に開かれた教育課程」の推進による、地域・保護者との連携の充実
 - ・保護者・地域・学校・関係諸団体との情報共有と連携の強化→信頼される学校づくり
 - ・ユニット型研修（熟議）の実施と参観者による授業評価→地域の思いの授業への反映と教職員の授業力向上および若手職員の育成
 - ・地域連携カリキュラムを有効活用した特色のある教育活動の推進
 - ・地域の子どもの「育ち」を見守り支援するための取組（「育ち」に対して、地域の大人全員で責任を負う意識の醸成）
 - ・中学校区（錦中）での共通した実践 → 熟議 → 「錦地域ネット」と「かじかネット」の活用
 - ・地域の方々を呼び込むための学校環境整備を含めた接遇のさらなる改善
- 授業力の向上（教育の専門職として、常に前向きに資質の向上に努める教職員集団づくり）
 - ・校内研修の視点を明確にし、めざす児童像の育成に向けた授業力等、資質の向上
 - ・「主体的に対話のある深い学び」のできる授業を目指した授業力の向上と振り返るための授業評価の実施
 - ・板書型指導案、略案、フローチャートなどによる学習（授業）の流れの「見える」化（めあてと振り返り）
- 小中一貫教育の推進
 - ・子どもの成長を中学校卒業までの長いスパンでとらえる小小連携、小中一貫教育の充実
 - ・めざす生徒像実現に向け、本校児童の実態を考慮しためざす児童像の設定
 - ・小中一貫教育カリキュラムの実施・検証・改善
 - ・錦中校区小中一貫教育推進協議会各部会や全体研修会への職員の積極的な参画
- 組織力の強化（全校態勢での組織力の強化）
 - ・「互いに力を出し合い、高め合う」学校組織
 - ・情報の共有・・・職員室は母港 職員の連携・協働による組織的な取組
 - ・「9人で10人を育てる」意識で子どもを見ることで、その子の「よさ」を見つけるための指導態勢（全校授業・授業交換・授業の互見等）
 - ・「子どものため」の意識をコアにした、児童・保護者・地域との信頼関係の維持

めざす具体的児童像

学年	みずから学ぶかしこい子 (知)	からだも心も元気な子 (体)	わを大切にできる優しい子 (徳)
1年 2年	学習のきまりを守り、進んで 学習に取り組む子	自分にできることを見つけ、最後 まで粘り強く取り組む子	自分だけではなく、友達のがんばり も認めることができる子
3年 4年	読書や自主学習の習慣を身に つけ主体的に取り組む子	継続的に取り組み、自分の特技) を見つかる子	一人ひとりの人格を認め合い、明 るく交流する子
5年 6年	学び方を身につけ、協力して 主体的に学習に取り組む子	何事にもあきらめずに取り組み手 本となる行動ができる子	友達や下級生を思いやり、挨拶や 掃除などを協力して活動する子

【主な取組】

特別の教科道徳	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的な学習を通して、多様な価値を引き出し、児童一人ひとりがより高められた価値観に照らして、今までの自己を振り返り、見つめ直すことができるようにする。 全ての児童が、学んで身につけることができた新しい価値(価値観)を基にして、今までの価値観とは異なるより高い価値観に立って振り返るようにする。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決能力を育てるために、意図的に課題を設定し児童が壁を乗り越えていきながら、工夫や協力をし、有用感や達成感を味わい自己実現へと向かう基礎的な体験活動を行う。 課題解決方法を身につけ、次の目標をもって取り組むことができるように課題設定を工夫する。 地域の人材・自然・文化等、幅広く多様な触れ合いから自分の立場や役割等について学ぶ。
児童会活動	<ul style="list-style-type: none"> 自分の大切さや自らの役割を自覚できるよう、「自分のしたいこと」「自分のできること」等をしっかりと伝えることができる力を育成する。 置かれた状況の中で自らの力を発揮し、人の役に立つ経験を繰り返すことで、「存在感」や「自己有用感」を高め、自治的な活動ができるようにする。
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人とふれあうことで多様な考えに接するとともに、生活習慣や規範意識について学ぶ。 (旧河山小での学習、森林体験学習、そば打ち体験、美川苑訪問、美川まつり参加 等) 感想発表の時間を確保し、感じたことや心に残ったことを自分の言葉で伝え合う力を育てる。 学習したことを、自分の方法でわかりやすく堂々と表現する力を伸ばす。 地域住民による学校支援や児童による地域貢献を通して地域活性化に資する。
体力向上	<ul style="list-style-type: none"> 朝の運動や業間体育を通して、健康体力の保持増進を図る。 朝ラン・・・持久走に特化したトレーニング 業間・・・一輪車、持久走、長なわとび、等 少人数指導のデメリットを解消し教育効果を上げるとともに、指導者のスキルアップもねらい、領域によっては授業においても合同全校体育を設定する。 互いに助け合い、励まし合って頑張り抜こうとする態度を育てる。
朝の学習	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、計算の繰り返し学習を通して、基礎基本の力を身につけさせる。 学年や児童の実態に即した読書を推奨し、語彙力や読解力を育てる。
朝の歌	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動の楽しさを体験し、音楽を愛好する心情を育み、豊かな心情を培う。 互いの歌声や伴奏を聴いて、元氣よく大きな声で歌う技能を身につけさせる。
緑化活動	<ul style="list-style-type: none"> 育苗作業・一人一栽培・かん水作業・飼育活動を通して、動植物の世話、環境美化に努めることにより、動植物に対する思いやりの心と郷土を愛する心情を育てる。
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の学習を通して学習習慣を身に付けさせる。 学年に応じた内容、方法の指導により主体的な学習態度を養う。 家庭学習の手引きを改善するとともに積極的に活用させ、自ら内容を選択し自主的に学習する習慣を育成する。
ノーチャイム	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが時間を意識して、自ら判断し行動するという自主的な態度を育成するため、終日チャイムは使用しない。
合同学習	<ul style="list-style-type: none"> 多人数学級での指導による社会性の伸長や学習効果の高まり、教職員の授業力のさらなる向上をねらい、他校との集合学習を実施する。
小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> 錦中校区小中一貫教育推進協議会と連携をとりながら、目指す児童像・生徒像を焦点化し、それに向けた小中一貫カリキュラムの検証・改善および各部会・全体研修会の充実を図る。